



1 穂波東校小中合同研修会 ～穂波東校授業スタンダード～

(1) 穂波東校授業スタンダード

穂波東校では、令和2年度より、福岡教育大学 教授 鈴木 邦治 先生のご指導の下、小学部・中学部ともに主題研究に「穂波東校授業スタンダード（以下、授業スタンダード）」を位置付け、次の目標に向かって取組を積み重ねています。

授業スタンダードのねらい

- 小中連続した「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 教師主導の「教え込む授業」から児童生徒が主体となる「考え学びとる授業」への授業改善

小中一貫教育全国サミットにおいても、穂波東校では、「授業スタンダード」に基づく多様な教育活動を公開していきます。

(2) 穂波東校小中合同研修会

6月3日（金）、鈴木教授をお招きし、穂波東校小中合同研修会（以下、合同研）を実施しました。

鈴木教授は、まず二つの授業（提案授業）を見られ、これに基づき「授業スタンダード」に関わる理論や事例について講義されました。

① 提案授業

提案授業は、小学部から秋吉先生、中学部から平尾先生が代表して行いました。

秋吉先生は、跳び箱運動の授業（4年生）において、「児童がタブレットやワークシートを使い、自分の跳び方を客観的に捉える」「グループ活動を通して、自分の跳び方の課題解決を図る」等の学習活動を通して、「より大きく、美しい跳び方」に迫る授業を展開されました。

また、平尾先生は、論理的文章を題材とした国語の授業（9年生）において、「生徒が本論の内容を段落ごとに図式化する」「具体と抽象の関係に着目し、文章構成の特徴を説明」等の学習活動を通して、「具体化と抽象化の方法の理解」に迫る授業を展開されました。



タブレットを使って動きを確認（4年生）



グループで相互に動きをチェック（4年生）



内容を段階ごとに図式化（9年生）



文章構成の特徴を相互に説明（9年生）

二つの提案授業は、「授業スタンダード」の示された「つかむ」→「見通す」→「一人学び」→「学び合い」→「まとめる」の各段階の在り方を具体的に示してくれました。

② 鈴木教授の講義

鈴木教授は二つの提案授業の各場面と結びつけながら「授業スタンダード」の要点を解説されました。その幾つかを以下にまとめました。

ア ゆらぎや葛藤を生み出す課題と出会わせる

子どもたち既有の知識や経験に基づき、子どもたちが心理的にゆらぎや葛藤を生み出す課題を提示することで、主体的に課題を追求する意欲を引き出す。

イ 学習活動中のつぶきやきを保障し、価値づける

子どもたちのつぶきやきから、子どもたちの状況を把握する。特に、つまづきが見取れた場合、教師はその解決に向け、その子どもに対して適切に必要な「ヒト・モノ・コト」を提示する。

ウ 「一人学び」で孤独にさせない

「一人学び」に主たる目的は「自分なりの考えを創る事」である。それは「自分一人で創る」ではない。

エ 「まとめ」「ふりかえり」は子どもの言葉で表現する

「まとめ」「ふりかえり」は子ども自身が納得する（腑に落ちる）言葉で表現することで、真に自己の学びとなり得る。



授業をされた平尾先生、秋吉先生の自評



鈴木教授による「授業スタンダード」のご講義



ご講義の中で、最後に鈴木教授が示された「授業スタンダードの本質」は深く心に残りました。

授業スタンダードの本質

- スタンダードは、子どもが（に）「守るもの・守らせるもの」ではなく、子どもが自ら「創り出すもの」。
- 「学習の主体である子どものための授業スタンダード」に向かって、常に更新していくもの。

今回の合同研では、小中一貫教育全国サミットにおける「授業スタンダード」に基づく指導案の書き方を飯塚市教育委員会 永水指導主事を講師にお招きし、研修します（6月23日予定）。